

業 界 短 信

(2 6 年 1 1 月)

三原商事東濃金属、スプライスの高品位化、即納体制強化。年産5万ト早期達成へ

(鉄鋼新聞、11/5)

(株)三原商事東濃金属(岐阜県可児市、三原吉宗社長)は、高品位化、即納体制強化でスプライス製品の競争力をさらに高める。今後2年間で本社・可児工場および関東工場の既存ショットブラスト機各2基を新鋭機に更新するほか、孔開け機を3台ずつ増設する。生産能力の増大で、両拠点合わせたスプライス製品の生産量年5万トの早期達成を目指す。

ワコースチール、ファイバーレーザ稼働。建機向け受注増に対応(鉄鋼新聞、11/10)

ワコースチール(株)(千葉県成田市、清水健五社長)は、ガントリー(門型)式の最新鋭ファイバーレーザ切断機を導入し、本格稼働を開始した。主力の建機需要が旺盛で、特に小型機種が生産が好調。これに伴い、小物・薄物の受注増が見込まれることから、これら受注内容に適したファイバーレーザを活用し、顧客満足度を最大限に高める。

仙台シャー、NCDドリルマシンなど新設備が順調稼働。一次加工内製化で受注増へ

(鉄鋼新聞、11/10)

仙台シャーリング(株)(宮城県岩沼市、林理明社長)は、10月から本格稼働したNCDドリルマシン、開先加工機、ショットブラストなど各設備を駆使し、顧客の一次加工を内製化することでサービス向上を図り、受注間口の拡大、切板受注増に注力する。

シーエスケイ、太田市に厚板溶断拠点。能力拡大、年明け操業開始(鉄鋼新聞、11/10)

(株)シーエスケイ(群馬県邑楽郡千代田町、坂本純一社長)は、県内の太田市内に賃借スペース約1100坪を確保。明年1月からの操業開始をめざし、厚板の溶断及び孔明けや折り曲げといった二次加工を行う新工場を開設する。現在の萱野工場と第三工場が保有する全ての加工設備と倉庫に保管する厚板母材を集約。さらに最新鋭プラズマ切断機を導入することも決まっている。新工場では、これまでガス溶断では設備レイアウト上、制約されていた40尺の長尺母材の在庫・定盤配置が可能となり、BH用など長尺切板の加工もできるようになる。新工場が竣工し、稼働が軌道に乗れば、設備集約と能力拡張および効率化によって、トータルで月産3千ト(現在は2千~2300ト)を目標としている。

アマダ、印南部に提案拠点。最新機展示、職業訓練も(産業新聞、11/13)

㈱アマダは10日、インド南部のバンガロールに現地法人社屋とテクニカルセンターを開設したと発表した。テクニカルセンターは最新のマシン、ソフトウェア、金型などを実際に使い、需要家の課題を解決するソリューション提案を行うための拠点で、世界各地に展開しているビジネスモデル。バンガロールテクニカルセンターには、テクニカルセンター機能とともに、職業訓練的なボケーショナルセンター機能も持たせている。

ワコースチール、厚板設備増やさず、溶断能力2割増へ(鉄鋼新聞、11/14)

ワコースチール㈱(千葉県成田市、清水健五社長)は、切断設備の台数を増やさずに厚板の溶断加工能力を現状よりも2割アップさせる独自のプロジェクトを着々と押し進めている。具体的には、①溶断スペースの増床②設備レイアウト③老朽化設備の更新、によって、現在の月間2500トンを3千トンに引き上げる構想だ。老朽化設備の更新については、設置後18年が経過したCO₂レーザ切断機を、最新鋭ファイバーレーザ切断機にリプレースし、10月下旬から操業を開始している。16ミリの厚以下の薄物をファイバーレーザに集中させ、25ミリの厚までの厚物を既存CO₂レーザ群に振り分けることで受注内容に応じたレーザの最適活用を行い、顧客サービス向上を図りつつ1台当たりの稼働率と加工能力を最大に引き出す。

松田商工、二次加工能力を拡充。曲げなど高付加価値化(産業新聞、11/14)

松田商工㈱(浦安市、松田学社長)は、二次加工部門強化を通じた高付加価値化を加速する。年初に第2工場にホッパーロール成型機を導入、本年度上期には、プレスブレーキ3基を増設したほか、開先加工機を更新、第1工場ではレーザ1基を設備した。曲げ加工をはじめとした加工能力の拡充を進めており、戦力化したほっぱロールについては、増設も視野に入れ次ステップの検討に入った。販売、加工量とも本円9月から再び増加しており、現場作業要員も4人増員、加工設備と合わせて体制を充実、引続き加工業務を高度化していく。

太陽シャーリング、機械など新分野開拓。次期中計策定進める。大手ファブと関係強化。

(産業新聞、11/14)

太陽シャーリング㈱(広島市、浅利重法社長)は、来期(2015年3月期)からの新中期計画スタートに向け、計画策定を進めている。造船向けの切断加工をベースに、これまで培ってきた技術を生かし機械・建築土木分野などで新たな柱となる事業を開拓したい考えだ。

日酸TANAKA、門系ファイバーレーザの安全性を向上。カバー改良、専用定盤も開発

(鉄鋼新聞、11/17)

日酸TANAKA㈱(埼玉県入間郡)は、広幅長尺厚板加工用の門型ファイバーレーザ切断機のレーザ光に対する安全性能を高めた。切断機全体を覆う「切断機カバー」の性能アップに加え、専用の「切断定盤」を開発。鋼板上面からの反射光と切断定盤内か

らの散乱光をシャットアウトする。

ダイコースチール、ロールベンダー増設。大型案件の受注推進(鉄鋼新聞、11/20)

ダイコースチール㈱(大阪市住之江区、齋藤幸雄社長)はこのほど、ロールベンダーを増設、稼働を始めた今年1月にもロールベンダーを新設しており、ベンダー2基体制が整った。同社は、切断から曲げ、溶接、穴あけ、ショットブラストまでワンストップで鋼板を一貫加工できるのが強み。新たにロールベンダーによる曲げ加工事業にも本格的に参入することにより、タンクや円柱など大型案件の受注をこれまで以上に推進していく方針だ。

阿部鋼材、レーザ切断機増強、月産100トン増。ステンレス対応力拡充(鉄鋼新聞、11/25)

阿部鋼材㈱(札幌市、阿部仁社長)は、発寒工場に同工場2基目のレーザ切断機として、4KW・開先レーザを導入し稼働を開始した。これによって切断加工能力は従来比100トン増の月産850トン体制となり、ステンレスへの幅広い対応も可能となった。

**村山鋼材、14年9月期経常利益4.1倍。売上高100億円台を回復。厚板・倉庫部門が伸長。
(産業新聞、11/27)**

村山鋼材㈱(浦安市、村山和雄社長)の2014年9月期業績は、売上高が前期比24.7%増の118億7100万円、経常利益が4.1倍の1億6500万円となり、増収増益を確保した。売上高は6年ぶりに100億円台を回復。販売単価の上昇と取扱数量の増加が寄与した。利益面では、自社販売、受託加工ともに増えた厚板部門と、入出庫量が高水準となった倉庫部門の両部門がけん引した。